

令和7年12月12日

◆鈴木ひでし委員

続いて、今と同じ質問の中で、1問だけ先にしましょう。県のデータがすごく大量だと、大手の今回のランサムウェアの問題で大変に、いまだに状況が変わっていない状況がどうかというのはありますが、そんなことで、県としてこれだけ大量のデータを持って、なおかつバックアップをされていらっしゃると思うけれども、このバックアップをした場合、万万が一それこそこの前の黒岩さんの答弁だと、もうほぼ完璧ですとおっしゃったけれども、完璧なものにデータはないわけで、そこに万万が一ウイルス等々の、またそれなりのセキュリティーを壊すような状況があった場合、当然そのデータのバックアップから実際に戻すためには、大変なやっぱり努力は必要だと思いますけれども、ここら辺はどう考えていますか。

◎情報システム担当課長

委員御指摘のとおり、実際の保全データからの復元時間については、そのデータ量だったり、復元する範囲、時点ですね、そういったものについて、条件によって大きく左右されると考えております。ただ、データ復元の時間短縮が難しいとしたとしても、それに至るまでの対応だったりとか、復元データの検証などについて速やかな対応ができるように、今後検討してまいりたいというふうには考えております。

また、技術の進歩によってデータ復元時間の短縮が図られる可能性というのは非常にありますので、そういった技術動向に注視しながら、データ保全とセキュリティー対策について適宜見直しを図ってまいりたいと考えております。

◆鈴木ひでし委員

それで止めますけれども、具体的なやっぱりセキュリティーの中身ですから、ただ、具体的にデータそのもの自体というのは、いつの時点からそういうようなことに、万万が一ウイルスがあった場合には、それに侵されたのか、またその見極め等々なんかというのは、大変なやっぱり努力が必要だということだけ言っておきたいと思います。

その中で、この何か神奈川DX計画というのを読ませていただいた、ところがこれ見て、これは本当に計画なのかなと思って、あと、この施策集、これをつくったからと、どこの委員会で、分からないけれども、まず課長さん持っていられるこの2ページに、現状と課題、これまでの取組と書いてあるじゃない、この中に課題なんてどこにも書いていないじゃん。一番最後のほうにこれからの課題というふうに書いてあるけれども、この中身と全然関係ない課題が書いてあるよね。例えば、この課題というのは、4のところ、8ページに書いてあるけれども、そもそもこれまでの現状と課題という中に、令和4年度、また3年度から4年度、5年の3月と書いてあったら、この問題点をここにしているから施策集というのが出てくるんだろう、そういう順序だよな本来。それがどこにも書

いていなくてさ、だから申し訳ないけれども、字面でやたらいろんなことがいっぱい書いてあるんだよ、この中に、これ見る人は何のことを書いてあるんだろうと読むし、これを考えると国のデータもひっくるめてもう全部書いてあるわけだ。読んでいる人というのは、多分そんな県民の方で読んでいる方はいらっしやらないかもしれないけれども、もうちょっとこれはきちっとした形でもって、この施策集の本編そのもの自体というのを書き直さなきゃおかしいと思うよ、これ。あなた方ちょっとずっといろいろ答弁しているけれども、その答弁の基本となるものがこれなわけだよ。それなのに、課題もなければどのように向かっていくのかというようなものもきちっと書かれているわけじゃない。とにかく字面がだらだらと書いてあるんだよ。この点、今日は、もう毎度言うけれども、常任じゃないから、詰めてみたってしょうがないんだけれどもさ、これをどう考えますか。

それと、もう一つ、このDX計画の中に、1ページ目を開けてみてください。これは1回施策集というのは、これとどういう関わり合いがあるの、どこにも書いていないのに、いきなり1ページに、開いている、かながわ子育てパーソナルサポート事業と書いてあるけれども、下の2行に、既存のシステムが実現できない機能を追加して利用者の利便性を向上させると書いてある、機能の強化というのは、6年度だけあって、あとは運用保持だけ横に引いてあって何も書いていない。これを見て何と思うかね、普通、こんなものをつくって。

その次のページ、2ページ、下のほうだけれども、デジタル版子ども目線会議運営、この中で調達と書いてある、何が調達なの、これ。調達と書いてあって、いきなり令和6年度のところにちょこっと矢印が、下を見ると、今度はまた同じように運用と書いてあって、横があって、その下に数字が書いてある、これを見て何を要するに表して何をしたいとしているのか、こういうようなものをひっくるめて御答弁くださいな。

◎デジタル戦略担当課長

ただいま議員のほうから、まず、本編のところについて、課題の捉え方のところについて御質問を頂戴したというふうに認識をしております。デジタルの課題のところは、社会のいろいろな情勢のところ、非常に広いところから捉まえていかなければいけないという部分があり、そういったところを全てちょっと記述しているというところで、非常に分かりにくさが出てきている、これは県民の皆様に対して分かりやすくという観点では、ちょっと不足しているところなのかなというふうに考えております。

その一方で、最終的にそういったちょっと冗長な、冒頭、課題認識のところから、最終的には議員お手元にページ、先ほどおっしゃっていただいたのですけれども、9ページにあります県のデジタル化推進の課題というところに、デジタルの問題としては収れんしていくのかなというふうに考えております。

次に、施策集のところの評価のところについて頂戴しました。こちら本編と同じになりますけれども、やはりこの施策集の各取組とか生活指標というのを分かりやすくしておくということは、非常に重要なことであるということは、しっかり認識をしております。こちら先ほどの、現在の施策集なのですけれども、

先ほどの本編の課題のところからの対応というところも、議員の御指摘のところにもございましたけれども、大きく2分野ということで、くらしのデジタル化と行政のデジタル化というまず大きな2分野に分けて、その中で分野ごとにちょっと分けているのですけれども、確かにその中で、各施策集の一つ一つまで、枝葉のように体系はちょっと出来上がっていないというところはあるのかなとは考えております。

そして、その指標なのですけれども、中にはやっぱり数値だけで生活指標を設定するのが難しいものもちょっとございまして、例えば、システムを運用する、維持管理を行うというそのものが、システムをもって運用することそのものが目的となっている施策、あるいは、システム導入ですとか、デジタル技術の活用に向けた調査研究ですとか試行、そういったものが施策などというのは、やっぱり数値というよりは実施の有無で、これをちゃんとやっているということを経験にさせていただいているというところがございまして。今調査とか研究トライアルの段階にある施策は、指標設定が難しいというふうに御答弁申し上げたのですけれども、こういったトライアルとかそういったものを通して、数値目標、どのような指標を設定することができるかというの、トライアルの一環で検討していくものと考えておりますので、本格的に運用する段になったらしっかりとした指標を立てていくということをしていきたいというふうに考えております。

◆鈴木ひでし委員

今長々と御答弁いただいたけれども、要は、あなた、この9ページのところの県のデジタル化の推進の課題というのだったら、ここの下にある1から7までのこの全部分類すればいいじゃん、この中から、こんなにあるんだから。それをしなかったから、何のための指標だか分からないんじゃないの、こんな書いてあるの。あなたの言っていることは、さっきこれできません、例えばこういうことはできないんですか、どこにそれは書いてあるの、この中に。今あなたが言ったこれこれこういうようなものについては今指標にすることができません、そういうことが書いてあるなら分かるけれども、どこにもそんなことは書いていない、これは見てみると、あなたの言っている答弁というのは、この場限りでも別にいいけれども、特別委員会だから、私これ以上言わないけれども、よくそこを一生懸命やらないと、いつまでたたってDXなんていう言葉ばかり出ているけれども、デラックスのまま終わるよ、本当に。これは言うておくけれども、DX、一生懸命いろいろあなた答弁されているけれども、DXというのは何か何でもいいようなことになっている、これはすごく心配しています。これはひとつよろしくお願いしたいと思います。

もう一つ、先ほどのEHRの話があったけれども、医療企画課長から答弁あったけれども、地元の鶴見として、全然活用されているなんて、私思えない。なぜだか分かる、課長。これはなぜこの拡大されないかと、どんな分析をされているの、もう一度聞くけれども。手短でいいよ。

◎医療企画課長

サルビアねっこのほうについては、令和4年にそういった例えば住民の網羅性だとか、それから平均在院日数だとか、あとはそういった重複、多剤処方、そういったところの件数など、そういったところで一定の評価をしています、確かに網羅性というところでは、なかなか評価がまだできないというのはあるのかなと思っております。

◆鈴木ひでし委員

そうじゃないんだよ、課長。これね、例えばあなたがさっき急性のやっぱり病院が7割と言った、7割といったって何人かしかいないんだからさ、7割も何も無いよ。ところが、そこからどういくかというところにサルビアねっこが使われていないんだよ、分かる、言っていること。二つあるよね。一つは、例えば、一次病院から二次病院へ行く、介護のほうに行く、そういう介護のほうだと、多分聞いたら大した数はないと思うよ、介護の場所そのもの自体。要は、入っているメリットが一つない、要するに、だから多分、私思うけれども、中核になっている例えば東邦病院とかいろいろあるけれども、ああいうところは皆さん御自分でもって次に行く二次病院、または三次病院、クリニック等とは、多分、私今まで見てきた限りでは、そんなもの御自分のデータでもってやられるのと同時に、もう一つ忘れちゃいけないのは、この中にサルビアねっともまた、さくらネットもそうだけれども、公が入っていないんだよ、鶴見区という区の中にいないと、患者がそこから右に行く、左に行くというときに、中には、失礼ですが生活保護の方もいらっしゃる、そういうデータというのはそこには入っていないから、一回一回区役所に行かなきゃならない、そういうものの中にネットが完結していないんだよ、丸く、言っている意味分かるよね。これをあなた方が忘れないでやっていかないと、9億数千万もの金を次から次につき込んでいって、増やしていきますなんて、増やす必要なんかないんじゃないかと私思ったりする。なぜならば、先ほど課長の答弁の中でもって薬の重複と、薬の重複は、普通おくすり手帳を持っていったら調剤薬局でちゃんと言ってくれるよ。そういう要はばらばらの中にネットをつくりましたというようなことだけが先に行って、私が決算のときに毎回言っている、つくったはいいけれどもどう成長しているのか、PDCAの最後のAと私が言ったやつだよ、その内容のチェックがなされないまま、だらだらと金だけ使うんだということだけ指摘しておきます。

それは課長も、すみません、最後にAIのほうに移らせていただいて、AIに先ほどから御答弁いただいた、そもそもがChatGPT、ここしかないけれども、AIなんてさ、私今この中にあるけれども、あなた方に言われなくたって、Copilotだったり、もう今Geminiそのもの自体というのは、Googleでもって、AIを使うのを待っているわけだよ、何でそんなChatGPTだけ、異様にそれだけ特化した形でやられているのか。だって、研修するならそれ全部だろうよ。議員のほうには、悲しいかな、Copilot使えないよ、これ。私、よく扱ったりするときは、何のことかっていうと、Windows 365を使えばそこのところはあるわけだよ、付録みたいに。きっと私、申し訳ないんだけど、Gemini使ったり、またグーグルのAI等々を使っ

て、その中でもってA Iを使ってやっている方はいっぱいいらっしゃると思うよ、多分。このときに、あなた方の研修のほうを見ていると、これは受けた人が本当に使おうと思うかね、これ。このことに何々をしてはいけないとかさ、こういうところに入れる前にもう一つ確認するんだよとかという、いっぱい何か正直に言ってレクチャーを受けた人が本当に使おうと思いますかね。先ほど五千何百人とおっしゃったけれども、五千何百人という方が使っているというけれども、何に使っているの、これ。要するに、どういう使い方をもって、一回でも使ったら五千数百人の中に入るの。

◎行政管理課長

カウントのお話かと思えますけれども、1回でも使ったらカウントというふうなところですよ。

◆鈴木ひでし委員

だって見ていて笑っちゃうと思うんだけど、これはそちらに、何だ、このガイドラインとあるじゃん、ここの1ページ目を御覧になってくださいな。この生成A IはC h a t G P Tのテキスト生成のみとし、入力した情報が生成A Iの学習データに活用されない設定になっている。だって活用しなかったらA Iじゃないじゃん。

その次のページ、2ページ目、ここのところに、A Iに情報入力するときは、生成A Iに直接入力せず、事前にメモ帳に下書きをするなど、誤入力に注意を払い、(1)の内容が含まれていないか十分に確認した上で入力してくださいと、こう書いてあるわけだよ。私、この中でもって見て、個人情報等々は入力しないと私も分かるけれども、そもそもがこれが本当に抵触しているかどうかというようなことを、逆にA Iでもって調べている人もいると思うよ。逆ですよ、そういうこともあり得るよね、これは抵触しているかな、これは違うかなと、検索することはあってしかるべきじゃないですか。でも、ここではしちゃいけないよと書いてある、何のためにこの

C h a t G P Tの研修をされていらっしゃるのかなと、素朴な疑問に私は思ったわけだよ。だから、さっきから言っているように、どの方も、きっとググるというぐらいだから、G o o g l eはちゃんと使っているはずだよ。そのところにA Iがついている、G o o g l eカメラもついている、もうすごい時代が来て、スマホでも何でもできる、その時代にこういう実録書も一生懸命作って、これやっちゃいけません、あれやっちゃいけませんというようなことによって、本当に職員の方が生成A Iなんて、まだもう過去のことになりつつあるんだけど、生成A Iそのもの自体というようなものを活用とは、本当にされているのかな。素朴な疑問として、どうですか。

あともう一つ、いいや、答えなくていいや。もう一つはさ、これは管理職の人が生成A Iは使っているの、課長とか部長とかもっと上の人たちが、この生成A Iを使っている。

◎情報企画担当課長

先ほど先行会派の御質問にもお答えしましたがけれども、本年11月に生成AIを活用している、非常に使っている方にアンケート調査をしました。そういった中で……。

◆鈴木ひでし委員

違う、違う。幹部の方が使っているかということだよ。

◎情報企画担当課長

はい。役職なども把握して、やはりそういう幹部の職員も、例えば、室長だったり、校長だったり、そういったような方々も使っているらしいです。それは確認をさせていただいております。

◆鈴木ひでし委員

私ももうこれで止めておくけれども、私は管理職の方から生成AI等々をしっかりと使って、部下の方たちがやっていたら仕事をしつかりしないと、生成AIとかと言っているけれども、今ジェネラルAIの時代だから。生成AIを使ってどう行動に起こすかと、さっき何か、今日いないの、もうなくなっちゃったのか、観光もそうだけれども、あれもきっとドコモかどこかのデータをずっと集めていらっしゃるんだよ、きっと。でも、あれも要するに、具体的にそこによってどういうふうにしていくのか、組み立てるまで、ジェネラルAIそのもの自体が、そういう時代にもう来ていて、私も先日、全然関係ない話だけど、国際ロボットアワーに行ってきた、めちゃくちゃすごい状況が始まっていますので、ぜひともそこら辺見ていただきながらよろしくお願ひしたいと思ひます。